

施策評価管理シート

2022(令和4)年6月作成

施策体系	政策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち	担当部局(室)名	部局長名
	基本施策	3	市民文化の創造		
	施策	1	文化振興		

1. 施策の基本方針(目指す将来像)



- 文化遺産や地域資源を市民共有の財産として大切に保護し、次世代に継承します。
- 名張らしさあふれる魅力ある市民文化を育み、豊かな心と文化の息づくまちを目指します。
- 多様な文化資源を活用して、郷土に誇りと愛着が感じられるふるさとづくりを創造します。

2. 令和3年度の取組内容及びその成果



・郷土資料館では、常設展示に加え、企画展を2回開催し、名張の歴史や文化等の魅力を発信しました。また、文化財指定・登録においては、旧喜多藤(本町)の登録有形文化財の登録を行うとともに、新たな指定・登録に向けた調査を行いつつ、貴重な文化財の周知に努めました。指定文化財の保存修理については、重要文化財・延寿院石造五輪塔の保存・修理事業を行い、県指定文化財・杉谷神社本殿の保存・修理事業を継続して行いました。

・特別天然記念物オオサンショウウオ緊急生息調査については、保護指導委員会の指導のもと、特別天然記念物である在来種のオオサンショウウオを保護するため、チュウゴクオオサンショウウオとの交雑種の河川からの駆除を目的とした調査および捕獲した交雑種の飼育を平成25年度より継続して行っています。調査の結果では、滝川上中流における交雑種の割合および捕獲される交雑種の個体の大きさが、調査を開始した当初より、割合は少なく、個体は小さくなりつつあるという成果が出ているところです。

・市史編さん事業については、現在「中世編」および「民俗編」について、市史刊行に向けて調査を継続して行っています。

・能楽のふるさとづくりを推進し、観阿弥祭等を開催することで、より一層の能楽振興と次世代への継承などを図るため、活動の場の提供に取り組みました。令和3年度は、『三重の能楽まつり』が開催され、県内の能楽団体との交流を行い、併設された能面展も好評でたくさんの観客を得ることができました。

・大蔵流狂言師 茂山宗彦先生の指導を受けている[名張子ども狂言の会]の活動に対して、《クラウドファンディング》による支援を募集したところ、22件で593,000円の寄附をいただきました。改めて、市民の子ども狂言に対する熱意を感じるとともに、今後、寄付いただいた資金を活用し、能楽振興及び子ども狂言の振興に努めます。また、古典芸能に携わる子どもたちが練習を重ねていた『名張子ども伝統芸能祭り』については、新型コロナウイルス感染症の影響で公演が中止となり、練習成果を披露できませんでした。

・市美術展覧会や市民文化祭の開催を通して、芸術文化活動の発表の場の提供や文化に親しむ場を提供し、市民の芸術文化を育みました。

・a d sホール(青少年センター)の利用状況は、新型コロナウイルスの影響でキャンセルが続き、利用料収入と利用実績が低迷した結果となりました。また、地方創生臨時交付金を活用し、2カ所の入口に検温器を設置する等、感染症防止対策を強化しました。

3. 施策指標(目標)の達成状況



施策指標(目標)の内容(単位)		基準値(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	進捗率
市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合(%)	目標	-	-	-	-	-	47.0	
	成果	44.0	42.7	40.0	37.8	37.5		0.0%
青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館、郷土資料館の入場利用者数【延べ数】(人)	目標	-	-	-	-	-	568,000	
	成果	367,771	409,317	446,400	461,123	479,060		55.6%
美術展覧会出展数【延べ数】(点)	目標	-	-	-	-	-	2,975	
	成果	2,012	2,215	2,384	2,559	2,739		75.5%

4. 成果や施策指標の状況を踏まえた課題や現状の分析



・特別天然記念物オオサンショウウオ緊急生息調査においては、調査を継続することで、交雑種の割合を低く抑え、在来種を保護するという一定の成果があるものの、河川下流から他の河川への交雑種の流入等が懸念されています。また捕獲した交雑種の飼育については、飼育数の増加によって、さまざまな面において負荷が大きくなっています。

・市史編さん事業においては、前回の市史刊行から10年が経つため、現在活動中の「中世編」「民俗編」の刊行に向けた取りまとめが急がれます。

・文化資源の活用面については、一般市民はもとより小中学校の学習に応じられるよう、教育センター等教育関連施設および市内で活動する民俗文化財、郷土歴史研究者等との協力を得て、効果的な企画展示等を実施する必要があります。

・観阿弥顕彰会の会員が減り、普及活動を行うとともに能楽振興を図る必要があります。また、市制施行70周年の際には、『名張新能』を記念事業として開催し、定期的に能楽鑑賞の機会を提供することで、【観阿弥創生の地名張】としての取組状況を広く告知し、定着させることが重要です。

・新型コロナウイルスの影響による制限は受けませんが、a d sホールの充実した施設をたくさんの方々にご利用いただくとともに、いろいろなジャンルの事業を計画し、文化振興の拠点として事業展開を進めます。

5. 分析結果を踏まえた施策の取組内容（令和4年度以降）



- ・郷土資料館の年間来館者数はコロナ禍前では2,800人程度の状況でしたが、令和3年度は臨時休館やコロナ禍の影響もあり約1,200人の入館者数となりました。今後、教育センターとの連携を強化し、来館される子どもたちの学習に活かせるように、郷土資料館の展示等について検討、また、一般市民の方に対しても市内で活動する民俗文化財団体や郷土歴史研究者等の協力を得て、展示の充実、広報の強化等を行い、文化資源が活用されるよう努めます。
- ・特別天然記念物オオサンショウウオ緊急生息調査については、平成25年度より行われている調査の10年の成果と課題をまとめ、報告書作成に取り組むとともに、調査指導委員会の指導のもとに、今後も特別天然記念物の保護に向けた調査および啓発等に努めます。
- ・市史編さん事業については、「中世編」「民俗編」の刊行に向けて、市史編さん委員会の開催と調査成果の取りまとめを推進します。
- ・観阿弥顕彰会、美旗まちづくり協議会や地元と協力し、『観阿弥祭』を開催します。能楽のふるさとづくりを推進するとともに、関係者との交流を図ることで、能楽振興と次世代への継承に努めます。令和4年度は、【観阿弥創座の地 名張】として、「観阿弥祭」と同時に「名張能楽祭」を開催し、能楽事業の開催を盛り上げます。『名張子ども伝統芸能祭り』を開催し、日頃の練習の成果を披露するとともに、同じように古典芸能に取り組んでいる団体とも交流することで、ますます伝統文化に対する意識の向上を図ります。また、〔名張子ども狂言の会〕は、三重県文化会館の主催事業「茂山狂言会」のプレステージに出演し、名張の能楽振興に関する活動を披露します。
- ・『市展』への高校生の出品も年々増えつつあり、作品出品を依頼するとともに、一般の方々の出展も促し、市民の芸術文化を育みます。また、65回目となることから三重県事業の『みえ県展』を誘致し、名張移動展を開催します。
- ・a d sホールにおいては、利用にあたって感染防止を徹底するとともに、文化活動の発表の場を提供し、芸術文化の拠点として活気ある施設になるよう、文化向上に努めます。また、三重県文化会館の主催事業「介護を楽しむ」「明るく老いる」演劇公演を誘致し、三重県文化会館との交流を図り、今後の文化会館事業への協力要請を行う体制づくりに努めます。

施策を構成する主な事務事業

*R3決算額が事業費1,000千円以上の事務事業を掲載しています（施設等維持管理、内部管理事務の事業を除きます）。

*R4予算は、R4.4.1時点での金額を記載しています。（R3からの繰越額含む。）

*R4予算のみ金額が記載されている事務事業（新規事業）は、R4の事業内容（計画）を記載しています。

単位:千円

会計	事務事業名	部局名	室名	令和3年度内容	R3決算額 (見込)	うち 一般財源	R4予算額
一般	オオサンショウウオ緊急調査事業	教育委員会事務局	文化生涯学習室	滝川流域で生息するオオサンショウウオの個別識別DNA調査を実施し、交雑種のプールの飼育を継続しました。 ・オオサンショウウオ生息調査指導委員会開催（年2回） ・調査業務委託（生息調査、保護飼育、DNA解析業務）	2,515	1,081	2,523
一般	ふるさと能文化振興事業	教育委員会事務局	文化生涯学習室	能楽のふるさとづくりの実践のため、「観阿弥創座の地」を情報発信するイベントの開催や、子ども狂言の会へ支援を行いました。	1,627	1,427	2,186
一般	青少年センター非常照明用設備改修事業	教育委員会事務局	文化生涯学習室	利用者の安全確保のために、経年劣化していたadsホール（青少年センター）の非常照明用バッテリーの取替工事を行いました。	1,287	387	0